

善水寺略縁起

野洲川の支流、思川の右岸に近く、岩根山の中腹に位置し、岩根山医王院善水寺と号す。天台宗である。

寺伝では、元明天皇和銅年間(708年~715年)に草創され国家鎮護の道場として、和銅寺と称す。最澄(伝教大師)によって中興され、比叡山の別院として尊せられるも、延文5年(1360年)の火災により建物、記録等すべて焼失し往昔のことは不詳。

桓武天皇(781年~806年)二病気の際、当時のお香水により平癒され、延暦9年(790年)善水寺の寺号を賜はったという。

現本堂は貞治3年(1364年)延海上人により再建され、幸ひ元龜2年(1571年)の織田軍の兵火による十二坊山(岩根山)の焼打には焼失をまぬがれ、寛永(1624年)の頃より東叡山の末寺となり、日光門主の支配下にあったが、明治32年(1900年)古社寺保存法により特別保護建造物に指定、戦後、文化財保護法により昭和29年(1955年)3月国宝建造物に再指定を受けた。

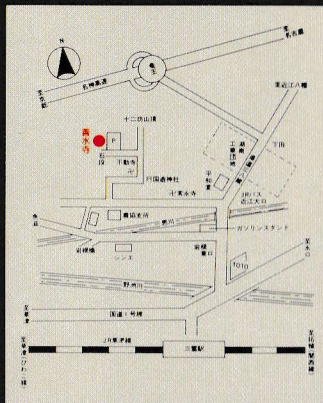
交通案内

JR

草津線三雲駅下車、JRバス近江八幡行にて、近江大口駅下車。西北へ徒歩約20分。

自動車

国道1号線より県道三八線に入り、岩根東口を左折、岩根橋西詰を右折、甲西町農協岩根支所前より山手に向う約5分。名神高速竜王インターより下田を経て、県道三八線を南下し、岩根東口を右折、以下上記と同じ。(マイクロは可。)



西国薬師第四十七番

善水寺

西国薬師第四十七番



滋賀県甲賀郡甲西町岩根
電話(0748)723730番

善水寺

善水寺

●建造物

本堂（国宝）

天台仏殿で、南北朝の再建である。七間に五間、入母屋造檜皮葺の大きく優雅な仏堂である。前面に向拝がないところ古風を感じさせ、建具に蔀戸を用いるので宮殿風の典雅さがある。軒廻りに蛇腹支輪・出組の組物が見られよく整っている。内部は内外陣を菱格子の境界で区切る。外陣で注目すべきは左右に梁をかけて中央の柱列を省略する珍しい手法で、周囲の組物から手挟が出ている取扱いは面白い。内陣須弥壇上の厨子（国宝）に入母屋造こけら葺で、本堂と同時代のものである。

●寺宝

薬師三尊像（重文）

中尊薬師坐像（秘宝）は厨子内に安置され、一木彫で背くりが施され、皆金色の像。胎内から麻袋に梱が入れられたもの、正暦4年(993)の願文が見出されている。藤原時代初頭の造頭で、その重厚さは時代をよく示している。持物の薬壺が当初のものであるのは有難い。脇侍は厨子外に立つ梵天・帝釈天（寺伝では日光、月光菩薩）で一木彫彩色の像で、三尊一具のものである。



木造薬師如来像

誕生釈迦仏像（重文）

銅造鍍金で像高は23、2種の小像で、奈良東大寺（国宝）に次ぐ名作と言われる。

花祭りの本尊で肉髻を表し、螺髪も鋳出し、丸々とした童顔に微笑をたたえ、三道や胸のくびれ腕の関節や皺、そして衣文も明快に表し緻密な表現の像である。なお盤は残念ながら大東亜戦に供出され現存しない。八世紀末(800年)の造像。

金剛力士立像二軀（重文）

仁王門が再建されず、この二像は本堂に仮安置してある。藤原時代の勇健な作、寄木造、黒眼、彩色。

四天王立像（重文）

仏壇上左右に立つ。寄木造、金泥盛り上げ彩色の残る藤原時代の温雅な作である。

持国天・増長天立像（重文） 鎌倉時代

兜跋毘沙門天立像（重文） 藤原時代

不動明王坐像（重文） 藤原時代

僧形文殊菩薩坐像（重文） 藤原時代

阿彌陀如来立像（県指定） 鎌倉時代（善光寺式像）

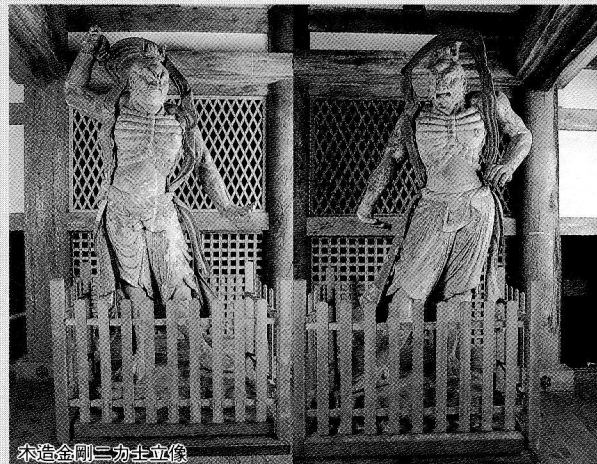
十二神将像

釈迦如来坐像

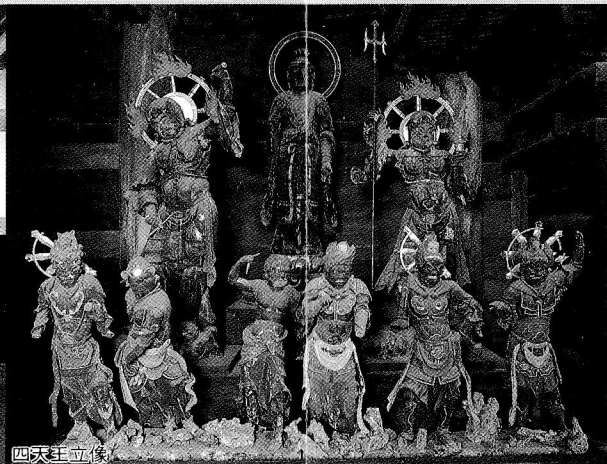
聖観音菩薩坐像

扇形懸仏三面 文亀4年(1504)の年号墨書。

後堂に安置



木造金剛三力士立像



四天王立像



金銅誕生釈迦仏立像

木造僧形文殊坐像